

LINN LP-12 の再構成(43) (HP 収載)

—総合試聴—

1. はじめに

LINN LP-12 の再構成(42)に引き続き、今回は、D 氏と M 谷氏と ST 氏にご来臨いただき、同様に現状を確認していただくことにしました。

2. LINN LP-12 その他総合試聴計画

アナログについては、ご持参いただいたジャズなどの盤についてイコライザーカーブや位相、さらには第4時定数の最適条件を探っていきます。また、借用した Marantz7 がありますので、イコライザーカーブが RIAA 以外の盤について、Marantz7 のトーンコントロールの調整を実施し、Columbia カーブの盤については、Marantz7 の Columbia カーブの設定で聴いてみます。

再生経路は次のとおりです。

再生経路 1

LINN LP-12→ZANDEN Model 120 (EQ 可変) →Brooklyn DAC+

*ZANDEN Model 120 の EQ カーブの最適条件で再生する。

再生経路 2

LINN LP-12→ZANDEN Model 120 (RIAA 固定) →Marantz7 (ライン入力)

→Brooklyn DAC+

*ZANDEN Model 120 は RIAA に固定し、Marantz7 のトーンコントロールの調整を行い、要時 Brooklyn DAC+で位相反転を加える。

再生経路 3

Thorens TD124→My Sonic STAGE 1030→Marantz7 (フォノ入力) →

Brooklyn DAC+

*Marantz7 は RIAA でトーンコントロールの調整を行い、要時 Brooklyn DAC+で位相反転を加える。また、Marantz7 は Columbia カーブの設定も行う。

また、Spotify の配信についてジャズその他を聴いていただき、アナログ盤と同じものがあれば、比較試聴します。

3. LINN LP-12 その他総合試聴結果

D 氏にご持参いただいたのは、コルトレーン&ジョニーハートマンの IMPURS 盤、エリントン&レイブラウンの PABLO 盤、アートペッパーmeets リズムセクションの Contemporary 盤、レイブラyantアローン at モントリューの Atlantic 盤、マイ

ルスラウンドの Columbia 盤で、マイルスは疑似ステレオのようです。

最初の耳慣らしのため、Bag Meets Wes の RIVERSIDE 盤と対応する Spotify の比較試聴を行い、ご持参盤の試聴に移りました。

以下、試聴の順不動で要約を記載します。

- Bag Meets Wes の RIVERSIDE 盤と持参された上記の盤は、すべて Columbia カーブで位相反転することがよさそうだったということになりました。
- Bag Meets Wes の RIVERSIDE 盤とマイルスラウンドの Columbia 盤に対応すると思われる Spotify の配信の比較試聴では、アナログ再生に一日の長はあるが、光アイソレーションなどの効果でロスレスではない Spotify のレベルの向上も確認していただきました。
- ZANDEN Model 120 の RIAA、位相反転なしで再生し、Marantz7 のライン入力で ZANDEN Model 120 の Columbia カーブに近づけるよう Marantz7 のトーンコントロールの調整を実施し、一定程度の効果を認め、さらに Brooklyn DAC+での位相反転も有効であることを確認していただきました。
- ThorensTD124 から Marantz7 へのフォノ入力で、RIAA の設定でトーンコントロールの調整を実施したり、Marantz7 の Columbia カーブの設定で聴いてみましたが、トーンコントロールの調整も有効ではあるものの、やはり Marantz7 の Columbia カーブの設定には及ばず、今回のような Columbia カーブが多い米国盤では Marantz7 の Columbia カーブの活用が効果的であることが分り、さらに Brooklyn DAC+の位相反転も必要に応じて活用することもよいのではないかと思います。なお、Marantz7 は、クラシック向きと想っていたが、Jazz でも真価を発揮しているという声があがりました。
- ThorensTD124 では、78 回転の再生ができますので、小川理子トリオの 78 回転盤を RIAA で再生し、78 回転盤の音を確認していただきました。また、山本剛の Misty の 45 回転のダイレクトカッティング盤では、トーンコントロールの調整が有効でした。盤を製作したキング関口台スタジオの機器は 20 年間放置されたものをレストアされたものですので、RIAA ではない可能性が示唆されます。

おなじく最近収録のダイアナクラール盤を ZANDEN Model 120 の RIAA と Columbia で比較しましたが、どちらがいいかについては評価が分かれませんでした。このようなマルチマイクからのミックスダウンの製作盤では、判定が困難になりがちです。

以後、YouTube のアリス紗良オットのベートーヴェンの合唱幻想曲、ベルリンフィルデジタルコンサートホールの HIMARI のヴィエニャフスキのヴァイオリン協奏曲 1 番や STAGE+のガラコンサートの椿姫の乾杯の歌の再生の後、最近 YouTube をよく聴くという M 谷さんが、寺井尚子や川井郁子のジャズヴァイオリンを再生されましたが、YouTube も光アイソレーションの効果などで随分変わってきていると

いうことでした。

4. まとめ

普段聴くことのないクラシック以外のジャンルのアナログや配信音源の試聴でしたが、持参いただいた盤は、イコライザーカーブや位相、さらには第4時定数も加え、盤の由来に応じた選択をすることの意義を感じていただけました。

また、イコライザーカーブが RIAA 以外の盤について、Marantz7 のトーンコントロールの調整を有効であること、Columbia カーブの盤については、Marantz7 の Columbia カーブの設定が非常に有効であることを確認していただけました。

配信については、コンテンツの豊富さや音質面での進歩も評価していただくと同時にアナログ盤との比較試聴もしていただきました。

以上